

# 出力軸部の強度チェック

IB シリーズ P1 タイプでは最大負荷モーメント容量が大きく取れる、アンギュラ軸受を使用しております。下記要領によって、お客様がお使い時の負荷モーメントが許容値を超えていないか、確認してください。

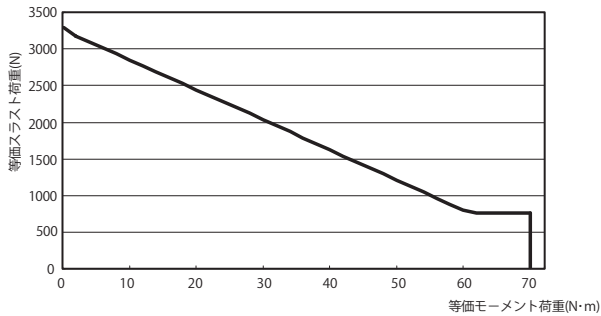
## 1. 最大負荷モーメントのチェック

$$M_{max} = \frac{Fr_{max} \cdot (L_c + L_r) + Fa_{max} \cdot L_a}{10^3} \quad \dots (1)$$

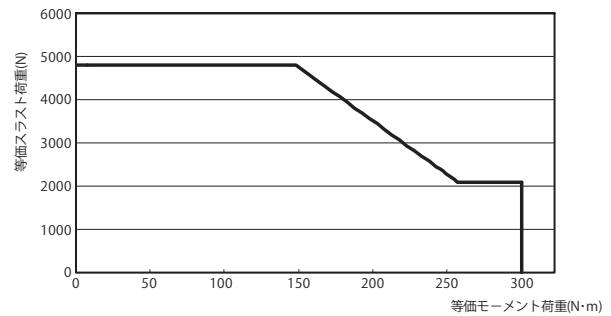
$M_{max} \leq Mc$  (許容モーメント) である事を確認してください。

表 C8 P1 タイプ許容モーメント  $M_c$

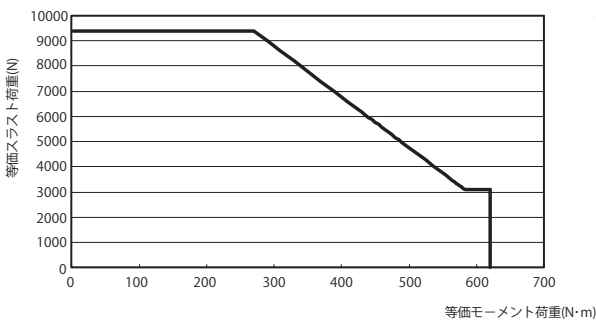
枠番	モーメント荷重	スラスト荷重
	N・m	N
P110	70	3300
P120	300	4800
P130	620	9400



P110 許容モーメント - スラスト荷重線図



P120 許容モーメント - スラスト荷重線図



P130 許容モーメント - スラスト荷重線図

表 C7 式 (1) の記号

$Fr_{max}$	運転パターンに於ける最大ラジアル荷重	N	図 C6 参照
$Fa_{max}$	運転パターンに於ける最大スラスト荷重	N	
$L_r, L_c, L_a$	荷重作用位置	mm	図 C5 参照

表 C9 寸法

枠番	寸法(mm)				
	$L_b$	$L_c$	$S$	$L$	$Z$
P110	52.76	42.38	2	28	19.62
P120	82.56	64.53	2	42	25.97
P130	109.02	86.26	4	82	63.24

- 注) 1. ラジアル荷重の作用位置が【 $L+S$ 】の範囲外にある場合は、お問合せください。  
 2. 許容線図範囲外でも、スラスト荷重の方向、荷重の作用位置によっては、問題ない場合があります。その際には、お問合せください。

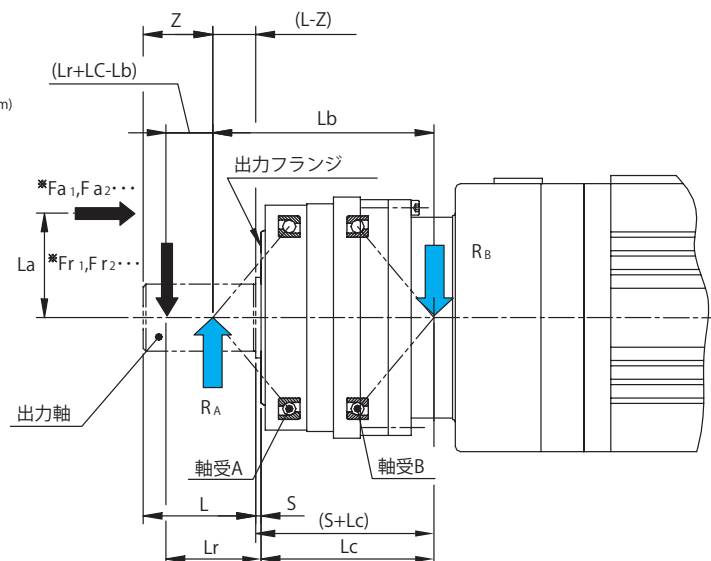


図 C5 外部荷重作用図

注) 図 C6 参照 (運転パターンにおける各区間の荷重を示します。)